

◆事業の目的

田植えから稲刈りまでの農作業を体験することで、地域との交流を図りながら、自然に親しむとともに、食べ物(米)の大切さを学び、収穫の喜びをわかちあう。

◆事業の流れ

実施日	活動名	場所	参加人数
5月17日(土)	仲良し田んぼ田植え	秋ヶ島の仲良し田んぼ	72名
8月10日(日)	イネの花観察会	秋ヶ島の仲良し田んぼ	9名
9月20日(土)	仲良し田んぼ稲刈り	秋ヶ島の仲良し田んぼ	31名
12月6日(土)	もちつき大会	市立新保小学校	300名
12月13日(土)	手巻きずし作り	市立新保公民館	80名

◆事業の様子

☆ 仲良し田んぼ田植え

「ころがし」で升目をつけた15aの「仲良し田んぼ」に素足で入り、コシヒカリの稲苗を植えました。



☆ イネの花観察会

農協の営農指導員に説明をしてもらい、5月に植えたコシヒカリの花と今の田んぼの様子を観察しました。

☆ 仲良し田んぼ稲刈り

たわわに実った「仲良し田んぼ」の稲を鎌で手刈りをしました。その後、機械まで運んで脱穀作業を体験しました。



☆ もちつき大会

収穫した米をもち米に交換してもらい、幼稚園からお年寄りまで、三世代交流もちつきをして味わい、収穫の喜びをわかちあいました。

☆ 手巻きずし作り

親子料理教室を開き、収穫した米を使って「手巻きずし」を作り、みんなで味わいました。

◆事業の成果と課題

子どもたちは、地域の方々との体験活動を通して、米作りの一つ一つの作業には愛情と工夫が重ねられ、生産を高める工夫や努力が続けられてきたことを実感し、日本人の知恵と文化の一端をこの農業体験学習から学んだ。そして、昔ながらの手作業を通して普段何気なく食べている米の大切さを知り、食べ物に感謝することができた。この事業は、今後も続けていきたい。

また、米を育て、収穫し、食べる過程から、子どもたちの環境問題や食文化への関心につながることを期待している。